

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30)
1~20は音読み、21~30は訓読みである。

- 1 勝者に賞牌が授与された。
2 惣領息子に家業を託する。
3 鎮咳剤を常用している。
4 業者から盛大な饗応を受けた。
5 貨物船で烹炊に携わっていた。
6 国産の繭糸が使われている。
7 賑救の施策が目下の要事である。
8 同僚の鶯遷を祝福する。
9 ひたすら搔頭するほかなかった。
10 王の無謀な戦を諫止した。
11 荏苒として死を待つばかりだった。
12 社会の病竈をえぐり出す。
13 一茶の句の短冊が貼してある。
14 昭和元年の干支は丙寅であった。
15 頃来長唄にいたく執心致し候。
16 高館霞表に上り、危楼山隈に臨む。
17 鰐魚は長さ二丈余、四足有り。
18 常に身を以て公を翼蔽す。
19 身体栗栗として嚴冬に歩するが如し。
20 九月場圃を築き十月禾稼を納む。
21 河原で奴胤を揚げている。
22 夕風の海に舟を浮かべる。
23 些か言い過ぎたようだ。
24 海辺の苫屋に寝起きしていた。
25 腰に灸の跡がある。
26 店主が夷顔で客を招き入れた。
27 荒れ地に水を漑いで植樹した。
28 檜扇をかざして艶やかに舞う。
29 土墻くして抜く可からず。
30 天下の寒士を庇いて俱に歓顔せん。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その表外の読みをひらがなで記せ。

- 1 何とも条の通らない話だ。
2 祖父の亡骸を棺に蔵める。
3 これまでさんざん焦らしてきた。
4 日本語として熟れた翻訳だ。
5 社長が一席設けて従業員を労う。
6 計画の挫折が憾まれる。
7 洞ヶ峠を極め込む。
8 動もすれば無理をしがちだ。
9 故に明るく振る舞う。
10 略百パーセントの正答率を示す。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを送りがなに注意して)ひらがなで記せ。(10)

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょうす

- ア 1 肇国……2 肇める
イ 3 嘗糞……4 嘗める
ウ 5 亙古……6 亙る
エ 7 赫烈……8 赫く
オ 9 勃爾……10 勃かに

(四) 次の各組の二文の( )には共通する漢字が入る。その読みを後の□から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10)

- 1 諸国を歴(1)して紀行文を残した。若い時から(1)蕩にふけてきた。滝に打たれて邪念が霧(2)した。報告と異なる事例が(2)見する。
2 悔(3)の情を認めて減刑する。天性英(3)なる君主であった。
3 ご(4)昌の由お慶び申し上げます。当時は会社の(4)運期だった。
4 孔子に次ぐ(5)聖として尊ばれた。青空に白(5)の灯台が映える。
5 あ・ご・こん・さん
しょう・ほう・ゆう・りゅう

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40)

- 1 開祖のレイビヨウに詣でる。
2 転倒してダイタイ部を強打した。
3 極上のカマボコを贈答用に使う。
4 作品にグウイを込める。
5 経済のヘイソクした現況を打開する。
6 内職で口をノリしてきた。
7 衷心からおウビ申し上げます。
8 息子に自立心のホウガが見られる。
9 西の空がアカネ色に染まった。
10 旧師のトンコウな人柄がしのばれる。
11 ウリ二つの姉妹で見分けがつかない。
12 ヨロクの多い仕事に就いた。
13 ここの土壤は水ハけが悪い。
14 三つ葉アオイの紋を染め抜く。
15 終生変わることのないユウギを結ぶ。
16 幼い頃から我がママな性格だった。
17 風呂場でセツケンを使う。
18 海外資本が国内市場をセツケンする。
19 ハンカチで涙をフいた。
20 屋根に銅板をフいた。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

氏名

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

- 1 古い箆筒の抽き出しの底から清粗な服装のうら若い母の写真を見つけた。
2 叡智を結集して組織改革を断行することが弊社にとって喫近の要務です。
3 この寺の雅藍の配置や廻廊の形状には百済様式との近縁性が窺われる。
4 既に全盛期を過ぎた相手を何人倒しても所選有名無実の覇者でしかない。
5 堅牢な石の壁は爆風にもよく耐えたが窓硝子は小つ端微塵に吹き飛んだ。

(七) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1

次の四字熟語の(1~10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20)

- (1) 夢幻 長身 (6)
(2) 玉杯 門前 (7)
(3) 走牛 熱願 (8)
(4) 落飾 堯風 (9)
(5) 一律 前途 (10)

じゃくら・しゅんう・せんぺん
そうく・ぞうちよ・ていはつ
ぶんぼう・ほうまつ・りようえん
れいてい

問2

次の1~5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10)

- 1 美しい女性のこと。
2 強いて知らぬ風を装って悪事を働く。
3 生来、言葉巧みで行動が機敏なこと。
4 学問や芸術などが衰亡すること。
5 風流心がないことのとえ。

焚琴煮鶴・凋零磨滅・資弁捷疾
醇風美俗・氷肌玉骨・一虚一盈
教唆煽動・掩耳盜鐘

(八) 次の1~5の対義語、6~10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20)

- 1 挽回 6 繁昌
2 着工 7 死別
3 公平 8 育成
4 称讚 9 横行
5 斬新 10 出奔

対義語

類義語

えいけつ・えいよう・しつつい
しゅんせい・ちくでん・ちようば
ちようりよう・ちんとう・とうや
へんぱ

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分を選択して漢字で記せ。(20)

- 1 医者イの薬もサジ加減。
2 イチモツイの鷹も放さねば捕らず。
3 ホウライイ弱水の隔たり。
4 握ればコブシイ、開けば掌イ。
5 身体はバシヨウイの如し、風に従つて破れ易し。
6 エンオウイの契り。
7 ハえば立て、立てば歩めの親心。
8 危うきことルイランイの如し。
9 鴨がネギイを背負って来る。
10 ミスイを隔てて高座を覗く。

(十) 文章中の傍線(1~5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア~コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20)

A 孔孟は一世の大学者なり、古来稀有の思想者なり。若し此の人をして卓見を抱かしめ、当時に行わるる政治の範囲を脱して恰も別に一世界を開き、人類の自分を説きて万代に差し支えなき教えを定むることあらしめなば、其の功德必ず洪大なる可きハズなるに、終身この範囲の内に口ウラクせられて一步を脱すること能わず、其の説く所もこれがため自ら体裁を失い、純精の理論に非ずして過半は政談を交え、所謂「ヒロソヒイ」の品値を落とすものなり。其の道に従事する輩は、飯令万巻の書を読むも、政府の上に立ちて事を為すに非ざれば他に用なきが如く、退いて窃かに不平を鳴らすのみ。豈これを鄙劣と云わざる可けんや。此の学流若し周く世に行われなば、天下の人は悉皆政府の上に立ちて政を行うの人にして、政府の下に居て政を被る者はなかる可し。人に智愚上下の区別を作り、己自ら智人の位に居て愚民を治めんとするに急なるが故に、世の政治に関わらんとするの心も亦急なり。遂に熱中煩悶してソウカイの狗の譏りを招くに至れり。余輩は聖人のために之を恥ずるなり。

(福沢諭吉「文明論之概略」より)

B Y中学の卒業生で、このほど陸軍大学を首席で卒業し、恩賜の軍刀を拝領した少佐が、帰省のついでに一日母校の漢文の旧師を訪ねて来た。金モールの参謀肩章を肩に巻き、天保銭を胸に吊った佐官が人力車で校門を辞した後ろ姿を見送った時、さすがに全校のどんな劣等生も血を湧かした。「ウウ、芳賀君の今日あることを、わしは夙に知った。芳賀君は尤も頭脳も秀でておったが、彼は山陽の言うた、才子で無うて真にコックする人じゃった」と、創立以来勤続三十年という漢文の老教師は、癖になつている鉄縁の老眼鏡を気忙しく耳に挟んだり外したりしながら、相好を崩した笑顔で愛弟子の成功を自慢した。「ウウ、この中で、誰が第二の芳賀になる? ウウ、誰じゃ?」

(嘉村礪多「途上」より)